

多賀城高校「仮設住宅設置」

2011年3月11日に起こった東日本大震災によって甚大な被害を受けた宮城県では、406地区22095戸の応急仮設住宅が必要になりました。多賀城高校にある仮設住宅は、実際に石巻市大原地区・旧大原中学校跡地に設置されていた1棟を移設したものです。一般的な仮設住宅の間取りは2戸1棟建てとなっており、1戸は4.5畳の部屋4つ分（面積29.7㎡）で間取りは2DK（台所・浴室・トイレ・4.5畳の部屋2つ）です。本校に設置されている仮設住宅は、1戸が使われていたままの状態で見学しており、もう1戸の部屋には、岩手県宮古工業高校から寄贈された「仙台湾周辺津波模型」を展示しています。この模型は約1.8m四方、縮図25000分の1で東松島市から亙理町に至る仙台湾周辺の平野部を再現したものです。そして湾内に水を流し込むと津波による侵水域が確認できるという装置です。これらは実際に学校にいらしたお客さんに見ていただいています。この仮設住宅を通じて、災害の恐ろしさ、そして東日本大震災を風化させない取組をしていきたいです。

